

肝内胆管癌における ESRP1 の分子生物学的および臨床病理学的役割

2001年1月1日から2021年12月23日までに肝内胆管癌に対して手術をうけた患者さん

研究協力をお願い

当科では「肝内胆管癌における ESRP1 の分子生物学的および臨床病理学的役割」という研究を倫理委員会の承認並びに院長の許可のもと、倫理指針及び法令を遵守して行います。この研究は、2001年1月1日から2021年12月23日までに肝内胆管癌に対して手術をうけた患者さんで初発かつ根治切除を施行した方を調査する研究で、2024年12月31日まで予後追跡調査を行います。また、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもって実施いたします。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：肝内胆管癌における ESRP1 の分子生物学的および臨床病理学的役割

研究期間：研究実施許可日から2024年12月31日

研究責任者：日本医科大学付属病院 消化器外科 吉田寛

(2) 研究の意義、目的について

肝内胆管癌は予後不良な疾患であり新たな治療戦略の開発が必要とされています。これまでに我々の教室では ESRP1 というタンパクの検討を行ってきました。ESRP1とは epithelial splicing regulatory protein 1 の略で様々な細胞を上皮様に誘導するタンパクです。癌細胞は転移する際に上皮間葉転換といって上皮系由来である癌細胞の性質を非上皮である間葉系の性質に転換します。ESRP1はその性質を抑える働きがあると予測されています。これまでに我々は膵臓癌、肝細胞癌にて ESRP1 の発現が低い方が予後不良であることを明らかにしてきました。そのため、ESRP1が肝内胆管癌においても予後予測因子となり将来的には新たな治療対象となる可能性があるため、肝内胆管癌と ESRP1 の関連を明らかにすることを目的といたします。この研究の意義は将来的に肝内胆管癌に対して新しい治療法が開発でき治療成績を改善できる可能性があることです。

(3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

本研究で用いる試料は手術で切除した標本です。研究方法は免疫染色法という方法を用いて肝内胆管癌における ESRP1 の発現を調べ、臨床病理学的因子や予後との関連を検討します。具体的に検討する項目は、腫瘍マーカー、Stage、年齢、性別、無再発生存期間、全生存期間です。

切除標本を用いる研究のため患者さんへの直接的な侵襲やリスクはありません。

個人情報に関しては適切な管理を行い厳重に保護されます。

単施設で行う研究であり、臨床的介入もありません。他施設に試料を提供することはありません。本研究では患者さんの経済的負担はなく謝礼金などありません。

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用いたしません。また、研究発表時にも個人情報は使用いたしません。

その他、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省）」および「同・倫理指針ガイドダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表いたします。

(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 消化器外科 病院講師 上田純志

〒113-8603 東京都文京区千駄木 1-1-5

電話番号：03-3822-2131（代表） 内線：24212

メールアドレス：junji0821@nms.ac.jp